

親にほめられたり、やさしい言葉をかけられた乳幼児ほど、主体性や思いやりなど社会適応力の高い子に育つことが、3年以上に及ぶ科学技術振興機構の調査で分かった。父親の育児参加も同様の効果があった。「ほめる育児」の利点が長期調査で示されたのは初という。東京都で27日午後に関われる応用脳科学研究会で発表する。

ほめる育児が 適応力高める

4カ月～3歳半、親子400組追跡調査

調査は、大阪府と三重県

の親子約400組を対象に、生後4カ月の赤ちゃん

など5分野30項目で評価した。

その結果、1歳半以降の行動観察で、親によくほめられた乳幼児は、ほめられ

かかわり方などをアンケートと行動観察で調べた。子

に対しては、親に自分から働きかける「主体性」、親

にほめ返す「共感性」

以外に、目をしっかり見つめる▽一緒に歌ったり、リズムに合わせて体を揺らす▽たたかない▽生活習慣を整える▽一緒に本を読んだり出かける▽などが社会適応力を高める傾向があった。

まで社会適応力が高い状態を保つ子が約2倍いることが分かった。また、ほめる

一方、父親が1歳半から2歳半に継続して育児参加すると、そうでない親子に

比べ、2歳半の時点で社会適応力が1.8倍高いことも判明した。母親の育児負担感が低かったり、育児の相談相手がいる場合も子の社会適応力が高くなった。

調査を主導した安梅勲江・筑波大教授(発達心理学)は「経験として知られていたことを、科学的に明らかにできた。成果を親と子双方の支援に生かしたい」と話す。【須田桃子】